

# 平成27年度 内閣府・経団連共催 「ダイバーシティ・マネジメントセミナー」開催報告

## 1 概要

内閣府は、主に企業の管理職を対象として、「ダイバーシティ・マネジメントセミナー」を開催し、東京及び大阪会場で約300名が参加しました。これは、ワーク・ライフ・バランスの取組の推進と女性を含めた誰もが能力を発揮できるマネジメントのあり方について、お考えを深めていただくことを目的としたものです。

(東京会場) 平成27年12月15日(火) 経団連会館

(大阪会場) 平成28年1月19日(火) 大阪国際会議場

※ 日本経済団体連合会(経団連)との共催事業です。



## 2 基調講演

川島秀之氏(三井物産ロジスティクス・パートナーズ(株)代表取締役社長)が「イクボスで業績と笑顔がアップ」と題して登壇され、

「私のもとにはこういう声がたくさん届きます。『うちの会社は制度も整っており、会社としてもワーク・ライフ・バランスを推奨しているのに、休暇が取れない。家事・育児等の私生活が充実しない。』原因を突き詰めると、管理職の意識改革が重要と考えております。

『制度より風土、風土より上司』なのです。そこでイクボスという考えに至りました。

イクボスとは、部下の私生活と将来のキャリアを理解・応援し、自分自身もワーク・ライフ・バランスを満喫しつつ、組織の長として職責を全うし、業績責任を強く持つ上司を指します。

イクボスが率いる組織は、上司も部下も、仕事以外の時間を通じて視野や人脈が広がり、効率的かつ主体的な働き方が身につく、仕事能力が向上します。おのずとやる気が高まり、チーム力が向上し組織力も向上します。その結果、企業にとってのリスク(社員の労災、隠蔽や不正行為、離職率等)が軽減するとともに、組織の生産性が向上し業績がアップします。この流れを企業が実現するため、経営者や管理職にこれまでの固定化した価値観や仕事のやり方、男女の役割意識を変え、それぞれの人材の能力を活かし、チーム全体の生産性を向上させるマネジメントが求められています。」

と講演されました。



## 3 事例報告

仕事と育児等の両立による柔軟な働き方と生産性向上を推進しているモデルケースとして、NTTグループにおいて育児休暇を取得した社員である中島求氏(日本電信電話(株)NTT ネットワークサービスシステム研究所研究主任)とその上司である森伸二氏(エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)ネットワーク事業本部 OpS&サービスソリューション部長)より、育児休暇取得の経緯やコミュニケーションの取り方、育児休暇復帰後のキャリアプランの考え方などについてご紹介いただきました。

